

医学英語論文 手とり足とり いまさら聞けない論文の書きかた

千葉一裕(監), 堀内圭輔(著)

順大大学院特任教授・運動器疾患病態学

岡田保典

若手医師・研究者が学ぶための必読書

「医学英語論文」を書くことは、医師であれば誰もがごく普通に考えることではあるが、実際には必ずしも多くの医師が英語論文を書いているわけではない。そもそも医師が英語論文を書く理由は何なのか。本書では、「Ⅰ 論文を書く前に」において、このような根本的な疑問に答えることからスタートして、「医学英語論文」を書くことの意義や考え方について述べ、「Ⅱ 英語論文の『作法』」と「Ⅲ 英語論文の基本構造とその対策」において論文の書き方に関する基本的かつ実践的な注意点が丁寧に(まさに手とり足とり)解説されている。

本書は、優れた研究実績を有する整形外科専門医である防衛医大整形外科科学講座の堀内圭輔准教授が執筆した著書であり、同講座千葉一裕教授の監修のもとに発刊されている。この手の本でよく見られる便利な英文表現や英文法の解説書ではなく、(1)英語論文作成の作法・決まり事の理解、(2)指導医、共同研究者、編集者、査読者、読者などの論文作成にかかわる人々とのコミュニケーションの重要性、(3)英語論文として発表することによる視野の拡大と充実した医師・研究者生活指向の必要性を若手医師・研究者に伝えることを主眼としている。

インターネット導入前の論文作成の解説書では、適切な英語表現の文例や英文法の提示は重要であったが、現在ではこれらはインターネットで簡単に検索可能となっている。したがって、今求められているのは、効果的なインターネットの使い方である。実際、本書では、コンピュータ・インターネット使用に関する重要情報が随所に盛り込まれている。また、「フォントの serif 体と sans

serif 体」、「文字のスペース」、「略語」、「遺伝子名・遺伝子表記法」、「文献、グラフ作成、作図ソフト」、「データの検定法」などに関する情報は論文作成に極めて有用である。

本書のもう一つの特徴は、英語論文がほぼ完成してから行われる「校閲の仕方」、「インパクトファクターの問題点」、「投稿先の決め方」、「査読に伴う問題点」、「受理後の作業」、「査読の仕方」など、最終的に論文が発表されるまでの全体像が理解できるようになっていることである。

一連の決まり事を本書で理解すれば、「あとは書くだけ」ではあるが、全ての人が簡単に医学英語論文を書くことができるわけではない。英語力が必要である。本書の「英語力を養う」の項目で、ポッドキャストや洋楽(英語の歌)が推奨されており、DeepL 翻訳ツールなどの機械翻訳の有望性についても触れられている。医学英語論文を書くとの強い意志を持って、本書の各項目における要所を押さえていけば、比較的スムーズにできるようになると思われる。タイトルに「いまさら聞けない論文の書きかた」とあるが、そもそも医師や医学生は「医学英語論文の書きかた」をこれまでにほとんど習っていないことから、本書は若手医師や研究者が学ぶための必読の書であり、できれば医学生にもぜひ読んでほしい良書である。



●A5/頁 220/2022 年
定価：3,850 円
(本体 3,500 円 + 税 10%)
[ISBN978-4-260-04883-5]
医学書院 刊